

草加市立歴史民俗資料館

れきみんだより vol.18



被災した草加町（現在の神明一丁目）

関東大震災から100年 ～過去の災害から何を学ぶ～

大正12年（1923）9月1日午前11時58分、相模湾伊豆大島付近の海底を震源とする大きな地震が発生しました。

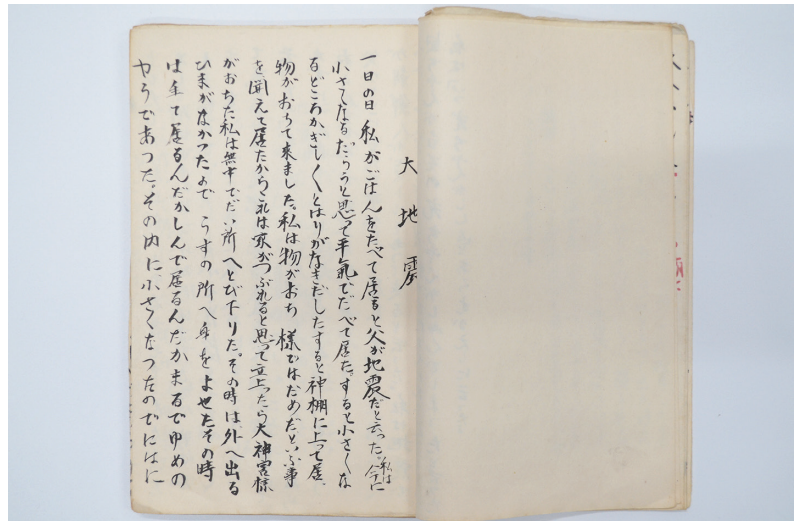
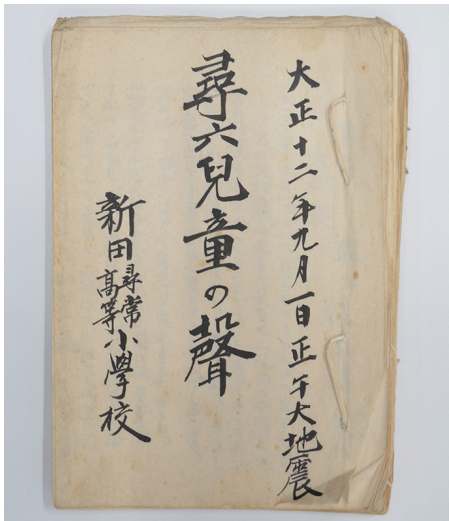
マグニチュード7.9と推定される巨大地震は、関東全域と静岡県・山梨県の一部に甚大な被害をもたらし、10万を超える人々が火災や建物倒壊、土砂災害、津波の犠牲になりました。ほんの一瞬の自然現象が、関東大震災と呼ばれる未曾有の災害をもたらしたのです。

令和5年（2023）は、関東大震災から100年の節目の年を迎えました。各地の博物館で、当時の被害状況を伝える様々な企画が催されたことは、記憶に新しいことと思います。

“れきみん”では、令和5年8月29日から9月29日にかけて、ミニ企画「1923.9.1- 関東大震災と草加-」を開催し、町会の記録簿や当時の児童文集など実際に地震に遭遇した人々の感想が記された大変貴重な資料を紹介しました。資料は、死者数や家屋の倒壊数などの数値とは異なる被害の凄惨さを私たちに伝えてくれます。

今、各地で大きな地震が相次ぎ、関東地方でもいつ巨大地震が起きるか危惧されています。

自分の住む地域がどのような被害を受け、どのように対応してきたか。先人たちが資料に込めたメッセージから学ぶことは多いはずで



「尋六児童の声」は、新田尋常高等小学校（現在の新田小学校）6年生の児童38名が関東大震災で被災した体験を記した児童文集です。

本資料は、朱字や黒字で添削されている作文が多数確認できることから、文章表現の指導を目的とした綴方授業の一環として児童に書かせたものと思われます。また、1名の児童の作文には「十月三日作」と日付が記されています。別の作文には「この間の地震」と記されていることから、地震発生から一月足らずの記憶が鮮明な時期に書かれたことがうかがえます。

さて、作文に書かれた内容から新田村の被害状況を整理していきます。

関東大震災を引き起こした地震は、大正12年（1923）9月1日午前11時58分に発生しました。その日は2学期の初日であったため、多くの児童は始業式を終えて帰宅し、昼食をとっている最中であったと記しています。

『草加市史』自然・考古編によると、新田村では418戸の内、149戸が全壊、114戸が半壊しており、6割を超える住居が被害にあっています。死者も18名を数え、文集を書いた子どもたちの同級生1名も含まれていました。作文には、校舎の倒壊と同級生が亡くなったことを伝え聞いて、大きなショックを受けたことが記されています。

また、児童の多くは草加町で操業していた煉瓦

工場で発生した火事を目撃したことを記しています。当時、現在のまつばら綾瀬川公園（松江二丁目）の場所には、煉瓦を製造する大阪窯業株式会社東京工場が操業していました。地震によって大きな煙突が真ん中から崩れ落ち、工場に宿直していた工員が火事によって命を落とす被害に見舞われました。作文には工場から黒煙が上がる様子を記すとともに、被災直後のため誰一人として消火活動に駆け付けることができない混乱した状況が詳細に記されています。また、東京方面の空は火災で真赤に染まり、翌日も黒煙が立ち込めていたそうです。

なお、地震による直接的な被害以上に流言飛語に惑わされる大人たちの様子に恐怖心を抱いたことが大きく記されています。地震発生の翌日頃から破壊活動の流言が飛び交い、新田村の各所では在郷軍人会や消防手を中心に槍や農具といった武器を片手に夜警が行われました。児童たちは余震に備えて野宿を強いられつつ、暴漢に襲われないか怯えながら夜を過ごしたと記しています。

「尋六児童の声」は、関東大震災に遭遇した児童たちの見聞きしたことや感じたことが子どもらしい言葉使いで詳細に記されています。

巨大地震の発生が危惧される昨今、過去に巨大地震を経験した先人の記録を教訓にして、防災の備えを心掛けなくてははいけません。

◆れきみん歳時記（令和5年6月～令和5年9月）◆

歴史民俗資料館で開催した講座やイベントなどの取組を紹介します

6月 紙芝居とちょうちん



れきみん体験教室「たぬきちょうちんを作ろう」を開催しました。“れきみん”周辺では昔はたぬきやムジナが多く生息していたそうです。体験教室では、たぬきにまつわる紙芝居を読み聞かせしてから、かわいたぬきちょうちん提灯を作りました。

8月 1923.9.1 - 関東大震災と草加 -



関東大震災から100年を迎え、過去の災害から学ぶため、企画展を開催しました。新田尋常高等小学校6年生の児童が書いた作文や被災写真を展示して、いつ起こるか分からない災害の恐ろしさ、備えの大切さを紹介しました。

7月 昔の道具がズラリ～



7・8月は夏季企画展「収蔵資料展 - 暮らしのうつりかわり -」を開催しました。“れきみん”が開館以来40年にわたり、多くの方々に寄贈いただいた収蔵資料の中から、毎日の生活で使用していた暮らしに関する道具を展示しました。

9月 子どもたぬき絵作品展



草加駅前一番通り商店会が毎年開催する「こどもたぬき絵作品展」の入選作品を“れきみん”で展示しました。過去5年間の入選作品を展示した他、会期中は今年度入選者の表彰式も“れきみん”で開催し、多くの児童や保護者で賑わいました。

◆企画展の次回予告

タイトル：桃の節句展

開催期間：令和6年（2024）2月14日⑶～3月10日⑩

3月3日の桃の節句にちなみ、館蔵の七段飾りや御殿飾りの雛人形、源氏物語 貝合わせを展示します。また、市民の方々が制作された、あざやかなつるし飾りも展示します。

春の訪れを感じる、華やかな展示をお楽しみください。



色彩あざやかなつるし飾り

◆れきみんブックレットを配布しています

“れきみん”では、草加の歴史・文化を多くの方に分かりやすく紹介するため、れきみんブックレットを発行しています。

最新号『草加松原のはなし』では、江戸時代から現代に至る草加松原の歴史に加え、草加松原内に設置されたモニュメントを紹介しています。

窓口で無料配布しています。ぜひ、ご覧ください。



草加市立歴史民俗資料館

facebook やってます！

皆さんに草加市の歴史や文化、資料館の活動を伝えたくて公式フェイスブックページを開設しています。様々な情報を発信していますので、ぜひ、ご覧ください！



草加市立歴史民俗資料館 🔍

市公式ホームページ内のSNSページ、または右の二次元コードからアクセスできます



【開館時間】 午前9時から午後4時30分まで

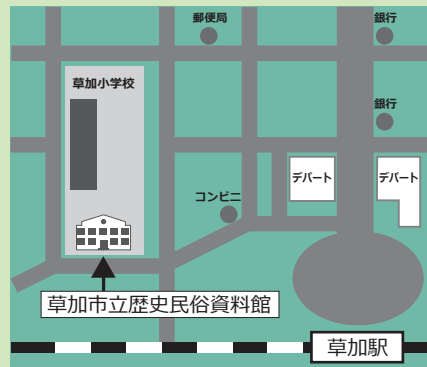
【休館日】 毎週月曜日（祝日または振替休日の場合は翌平日）
年末年始

【入館料】 無料

【住所】 〒340-0014 埼玉県草加市住吉一丁目11番29号

【問合せ先】 電話 048(922)0402 ファクス 048(922)1117

E-mail sokarekimin@city.soka.saitama.jp



東武スカイツリーライン「草加駅」下車東口徒歩7分
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

れきみんだより vol.18

発行日：令和6年（2024）1月20日 編集・発行：草加市立歴史民俗資料館